

名戸ヶ谷ビオトープだより

第59号 2014年秋号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

収穫祭

2014年11月2日(日)



ご馳走さまでした

雀代表
チュン子、チュン太



今年は11月2日(日)に「収穫祭」を行ないました。前日の天気にはヤキモキしながらも、結果的には素晴らしい天気の中、開催することができ、自家製のお餅も美味しく頂きました。

残念ながら子どもの出席者はなく、担当としては少し寂しかったのですが、総勢24名の方の参加の中、生の詩吟もご披露いただき、大人の世界を堪能させていただきました。

担当として、来年はもう少し日本酒を調達しようかなあと考えております。また、大根おろしも何とかしないといけませんね。大根おろしにご協力いただき、ありがとうございました。

今後も名戸ヶ谷ビオトープの活動に、皆様のご協力をよろしく願います。

(橋本 保明)



稲刈り

8月30日にはざ掛け用のパイプ棚を木道に沿って作成しました。うるち田5・6を休耕にしたので、昨年より中央木道沿いを少し短くしました。

9月6日は、幹事会でしたが現地でテーブルを並べて実施し、早めに済ませて雀よけネットを外し、片付け後に稲刈りを開始しました。多くの会員の参加でもち稲の刈り取り、はざ掛けを済ませました。13日はうるち稲の刈り取りです。田んぼには水も残り足元が悪く苦戦を強いられました。翌日の14日も引き続き行い、昼のおにぎりで休憩しながら刈り取りを終了させました。はざ掛けパイプ棚も10mほど追加しました。去年は台風で倒れたので、田んぼに杭を打って、補強もしました。雀が早速集まってきて干した稲に張り付いて食い放題状態です。

今年の案山子は ふなっしーとカシワニ 人物は誰？

大人気のふなっしーと地元でもいまいちのカシワニを追加しました。話題の人は、割烹着姿の理系女さんと前自民党幹事長にしました。なぜか雀が多く集まってしまいました。

(小笠原 智)



はざ掛けパイプの組み立て



稲刈り作業



脱穀・唐箕選別

10月5日の台風18号の影響もあり。今年には11日の脱穀・唐箕作業になりました。うるち稲は雀に食べられたこともあって少し軽めのものが多かったようです。脱穀作業もおにぎりの昼食を挟んで午後も頑張り、1日で済ませました。12日に橋本幹事と藤心ライスセンターに粳を運び粳摺り、精米をお願いしました。

収穫量は、精米でうるち米：150 kg、もち米：110 kg ほどです。反当たりの収穫はうるちで5俵弱、もちで5俵強、ほぼ昨年並みでした。

18日にはパイプ棚を解体し、藁切り散布、25日の藁切り散布作業で今年の稲作作業は無事終了しました。本当にお疲れ様でした。

(小笠原 智)



はざ掛けで食中の雀たち



脱穀・唐箕選別作業



稲が無くなったパイプ上の雀たち



藁切り散布作業



藤心ライスセンター

秋の生きもの観察会

10月18日(土) 9:30～11:00 朝から秋晴れの天気となり、秋の生きもの観察会が行われました。「柏の自然と生きものフェスタ2014」のイベントとして「かしわ環境ステーション」との共催でしたが、参加者はわずかで父兄2名、児童2名、生きものフェスタの森委員長と知り合いの児童1名の計6名でした。

最初に篠崎さんの挨拶とビオトープの説明をした後に、用意した網を持ちBゾーンを駆け廻りました。ザリガニ釣り場、三角池などで、アメリカザリガニ、カダヤシ、スジエビなどを捕獲し、後半の30分はトンボ、チョウ、バッタ、イナゴなどを網で捕まえるなど昆虫を探し求めていました。当日は合同作業日でもあり、はざ掛け用パイプ解体作業で児童たちにケガの無いよう慎重に作業を進めました。最後に篠崎さんから捕獲した生きものについての説明、外来種のこと、メダカとカダヤシの違いなど写真を見ながら説明で熱心に聞き入っていました。父兄には「柏の自然と生きものフェスタ2014」のパンフを渡して無事に終了です。生きものに触れての楽しい半日だったと思います。自然環境の大切さを更に深めて欲しいと思います。



ザリガニを探しています



生きもの説明

秋の生態調査

10月20日(月) 13:00～14:30 気温25度
朝からくっきりと晴れ上がった天気となり柄澤さん、篠崎さん、松清さん、藤平の参加で今回は午後からの生態調査となりました。1時間半あまりABゾーンを調査、42種を確認して18日の観察会と合算では49種数となりました。比較では同時期、ほぼ同じレベルです。ビオトープの環境保全が皆さんの協力でしっかりと維持管理されております。

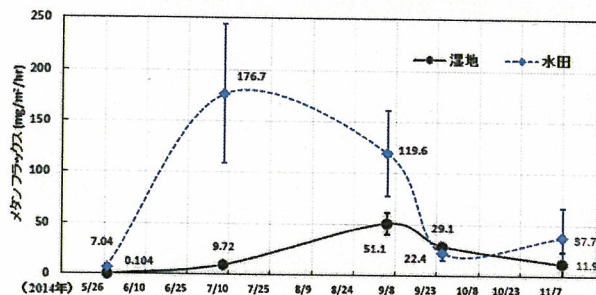
(藤平 三郎)



湿地からのメタン排出量の測定



図 名戸ヶ谷ビオトープにおけるメタン排出量の測定結果



た。そして、この新しい稲作法は、温室効果ガスの抑制に有効であることを明らかにしました。

しかし、この稲作法では、節水の結果、雑草が増えてしまいます。だからといって除草剤には頼りたくありません。ですので、手作業で除草しています。新しい稲作法に適用できる「機械除草」については、農業機械メーカーも取り組んでいますが、まだ実用段階になっていません。

小さな区画で稲作を行う市民農園であれば、この稲作法を導入していただき、手作業での除草をお願いすることも可能ではないかと考え、「名戸ヶ谷ビオトープ」さんと「下田の杜」さんに、この春お話しをしてみました。しかし、どちらの水田も立地条件から排水が難しく、また、もしもポンプを使って排水をしたとしたら、生きものが暮らしにくくなることがわかりましたので、素敵な市民農園にこの農法をお願いすることは止めました。その代わりに、メタンがどのくらい出ているのかを、測らせて貰いました。

空気中のメタンを測ることは、測定機械さえあればそれほど難しくはありません。難しいのは、水田から出ているガスを捉えることです。写真は、水田にアクリルの箱をかぶせ、ガスを取っているところです。

今年の夏は、5回、ガスを採取させて貰いました。その結果は図のようになりました。平均値とデータのばらつきとを示しています。春と秋は、湿地と水田に大きな差はありませんが、夏は大きな差が出ました。施肥の影響と考えられます。ただし、ばらつきが大きいことに注意する必要があります。これまで先輩たちが測ったデータは、夏も10～30(mg/m²/hr)くらいでしたので、湿地からはメタンがかなり多く出ていることがわかりました。

名戸ヶ谷ビオトープは、その名の通り、生きものの宝庫です。私たちも、測定中、トンボやカマキリが近くに寄ってきて、何だか楽しくなりました。メタンガスが多く発生していることは、残念ですが、生きものには替えられません。また、それほど広い面積ではないので、メタンガスの量も微々たるものですので、どうかご安心下さい。(以上)

ビオトープと私

佐藤 清隆 さん



私は福島県の出身で、実家の所在地名は「福島市泉字清水田」。今ではすっかり住宅地になりましたが、私が幼い頃はホタルも舞う、名の通り綺麗な水の豊かなところでした。れんげ畑や田んぼに囲まれた泉湧く池のそばで、妹や友だちと走り回って遊ぶ毎日を過ごしていました。

平成 12 年転勤のため新柏に引っ越し、間もなく、名戸ヶ谷病院のそばに湧水があることを知りました。早速散歩がてら訪れてみると、ペットボトルなどの容

器に水を汲んでいる人々の姿に、私も持ち帰りコーヒーを沸かすなどして満足しておりました。

しばらくして、その場所が行政と市民の手で「ビオトープ」として保護、整備される計画であることを知りました。名戸ヶ谷のきれいな湧水と景観が、未永く続くことを願い、その一助になればと入会を決めました。中央公民館で開かれた第一回の総会に出席した際は、会員の皆さんの熱意に触れ、大変刺激を受けたことを思い出します。私は休みが不定な勤務ですが、作業日が休みに当たった時には、皆さんの教えを受けながら、田植え、草取り、稲刈りなど気持ち良い汗を流させて頂いています。なにしろ農作業は全く経験がありませんので、力不足で申し訳ない限りです。加えて、近年は単身赴任生活が続いていますので、ピンチヒッターで妻を投入していますが、十分な戦力になれず恐縮しております。

「名戸ヶ谷ビオトープ」との付き合いも十年を超えました。帰省時に訪れるとビオトープの景観と、皆さんとの会話に「柏に帰ってきた」と実感し、ホッとします。まだ暫くは変則的な参加となるかと思いますがご容赦下さい。ビオトープとは息長く付き合い合えればと考えております。宜しくお願いします。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）下車すぐ

面積：約 4,400 m² 湿性生物：57 種 生きもの：161 種（内、千葉県指定保護生物 26 種）

（2013 年、年間を通じて観察した生きものの種類）